平成25年度　石狩湾系ニシン　漁期前半の状況と今後の見通し

平成26年2月18日　中央水産試験場

1．漁期前半の状況

今期は序盤の漁獲がほとんどなく，1月末頃より石狩湾前浜での漁獲量が増加しました。留萌・宗谷海域ではこれまでのところほとんど漁獲がありません。

今期の2月10日までの漁獲量は石狩北部海域（浜益，厚田）で2009年以降の平均を上回り（右図），2月上旬のみの漁獲量としては両地区ともに過去最高水準となりました。一方，後志前浜（小樽，余市）では2009年以降で2番目に低い漁獲にとどまり，石狩地区でも北部ほどの漁獲量とはなっていません。古平地区（主として沖刺（深み））は，2009年以降の平均とほぼ同程度で推移しています。また，昨年末までの沖底漁業によるニシン漁獲は約134トン（暫定値）と，過去2番目に多い漁獲となっています。

漁獲物については，5年魚（2009年級）が大半を占めており，大型魚が主体となっています（これまでの漁獲物調査速報を参照）。また，今期の特徴として，1月末以降の漁獲物は前浜，沖刺しとも産卵直前もしくは産卵後の個体で占められ，成熟経過中の未熟卵を持つニシンがほとんど確認されていません。

以上，前半の漁獲状況から，今期の来遊資源量は概ね2009年以降の高水準の範囲にあると考えられます。しかし，今期前半までのニシンは，未熟状態で湾内に入ることが少なく，沖合深みで成熟が進み，前浜へは産卵のためだけに来遊するような傾向がうかがえました。結果として前浜での滞在期間が短くなったことにくわえ，地区別の漁獲状況から石狩北部海域に偏って来遊したことも明らかです。そのため前半の漁獲量は，来遊量のわりには今一つのびなかったのではないかという印象が否めません。

このような不安定な来遊の原因については，12月から現在までの湾口部や湾内の水温変化によるところが大きいとみていますが，詳細は，今後の動向や今週実施予定の海洋観測データをくわえ，漁期終了後に分析します。

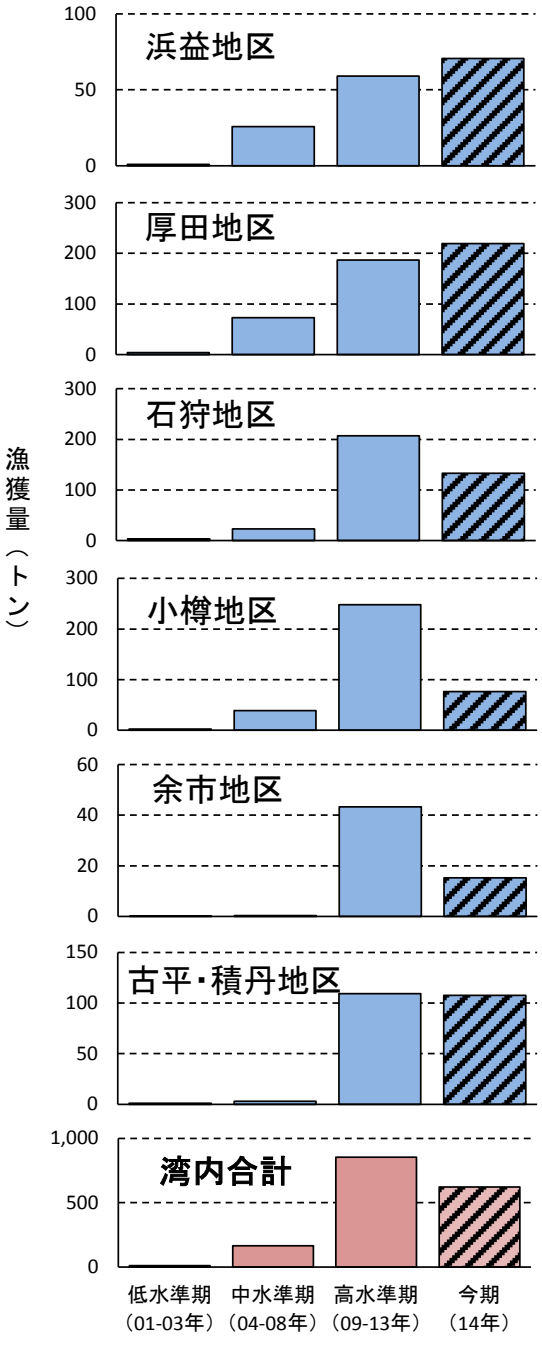

図　資源水準期ごとの平均漁獲量（2月10日時点）と今期の漁獲量

※2000年代の来遊資源量の水準を，2001～2003年（低水準期），2004～2008年（中水準期），2009～2013年（高水準期）の3期に分け，それぞれの年代における，2月10日時点までの累積漁獲量の平均値を示している。これに対し，右側の斜線グラフが今年2月10日までの漁獲量。（漁獲量は，指導所・道庁とりまとめの速報値および水試集計値に基づく）

２．今後の見通し

2月11日以降は全体的に薄漁となり，週末は海況が不安定，さらに17日から2～3日間はシケとなったことから，2月中旬の漁獲量はのびない見込です。

5年魚（2009年級）

いうまでもなく今期の中心となっている年級ですが，これまでの傾向では，5年魚以上の高齢魚は2月中旬以降は来遊が減っていくため，前頁のとおり，来遊が2月上旬期に石狩北部海域へ集中してしまったのではないかという懸念があります。しかし，沖刺しの聞き取り調査から，先週も5年魚主体の産卵前ニシンの混獲が続いたものと推定されますので，このシケ明けに多少なりとも来遊があるのではないかと，漁獲動向に注目しています。

4年魚（2010年級）

5年魚とともに漁獲されますが，資源量の少ない年級であるため，大きな漁獲増には貢献しない見込です。

3年魚（2011年級）

例年，2月下旬から3月にかけて来遊が増えますが，現時点で資源量の規模を把握しかねています。稚魚期には2009年級より高い分布量だったので期待は持っていますが，これまでのところ漁獲物にほとんど含まれていません。今期については2009年級の30～40%（尾数）程度の来遊になるのではないか，とみています。また，目合の拡大傾向にともない，3年魚は漁獲されにくい可能性もあります。

2年魚（2012年級）

昨年末まで，港内での釣りや小定置などへの混獲が目立った年級であり，現在は沖合深みに分布が移っています。2月12日に留萌沖で混獲された2012年級88尾を調べたところ，52%が今期に成熟するニシンでした。今期はまだ魚体が小さく現行の2寸目以上ではほとんど漁獲対象となりませんが，3月下旬から4月頃に，石狩北部から留萌南部にかけての海域を中心に来遊，産卵する可能性があります。年級豊度が相当に高い場合は，小定置等へのまとまった入網や，海草・漁網への産み付け，群来など産卵の痕跡が確認されるかもしれません。